

沖合漁場開発調査（中層資源）

由 木 雄 一

日本海における未利用の中層資源の実態を明らかにし、この開発利用を計ること、また、これらの海洋における生物学的地位を明らかにし漁業生産に寄与することを目的とする。

昭和52～54年度指定調査研究総合助成事業で日本海南海域の中層資源として、ホタルイカ・キュウリエソ・ウマズラハギ等の分布を明らかにし、これらの魚種を中層トロール網で漁獲する技術についてもほぼ確立した¹⁾。そして、昭和55年度はこれらの魚種の季節分布とウマズラハギの移動回遊²⁾およびキュウリエソの産卵生態³⁾について明らかにした。

材 料 と 方 法

昭和56年度は図1に示す海域で、3航海のべ11回の調査をおこなった。使用漁具は改I型¹⁾（中層トロール網）の魚どり部に9mmの内張りをはったものである。各調査点では海洋観測（STD・DBT）、卵稚仔の採集（ノルパックネット150m鉛直曳）、トロール操業をおこなった。漁獲物は魚種別に計量し精密測定をおこなった。また、北上群であるウマズラハギの未成魚を図1に示す海域で昭和57年3月9日～29日の間に計10,822尾標識放流した。

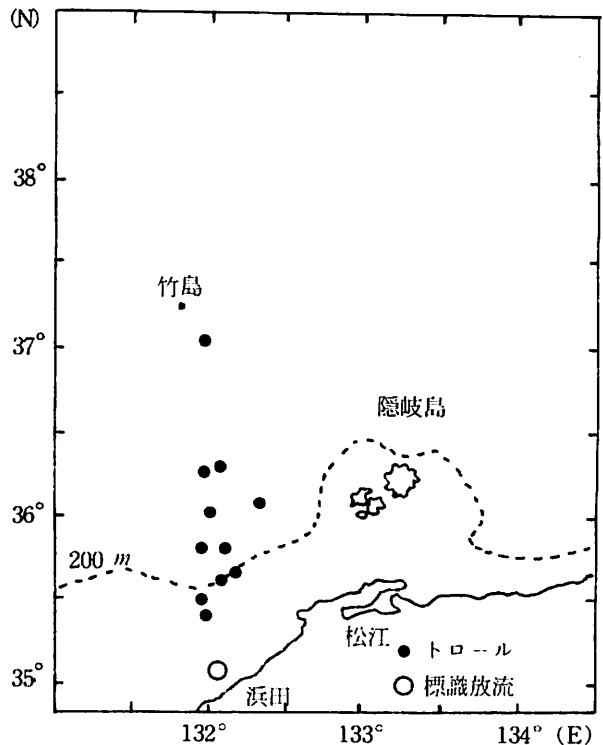


図 1. 調 査 海 域

結 果 と 考 察

昭和56年度はのべ11回の操業しか実施できなかった。漁獲物はこれまでと同様キュウリエソが主体で、それに産卵時期のホタルイカが少量と量的にかんばしくない成績であった。9月の航海でわずかにスケトウダラ（1網60kg）の漁獲がみられたが、魚体も（TL 150～190mm）卵巣も小さく未熟な群であった（付表に操業記録を示す）。また、今年度実施したウマズラハギの標識魚の再捕の報告はされていない。現在、キュウリエソの産卵生態にひき続き年令と成長およびホタルイカの産卵生態について検討中である。

文 献

- 1) 山崎繁・安達二郎・田中伸和・由木雄一・石田健次：島根水試資料，1，1－73（1980）
- 2) 由木雄一・山崎繁：島根県水産試験場事業報告 昭和55年度，20－23（1980）
- 3) 由木雄一：日水誌，48（6），749－753（1982）